

JICA 関係者限定資料

南アフリカ

任国情報

1998年

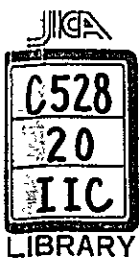
JICA LIBRARY



J1149316(0)

国際協力事業団

国際協力総合研修所



はしがき

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家などのJICA関係者に、赴任国での生活上必要な情報を提供するものです。

本書の刊行にあたっては当該国に派遣中の専門家などJICA関係者の皆様から多大な御協力を得ました。また、外務省、在外公館、その他関係機関の御好意により、貴重な資料の一部を利用させていただきました。

今後も本書の内容を一層充実させ、常に新しい情報の提供に努めたいと考えております。本書が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

なお、本書に記載された内容は、当該国に派遣中の専門家などJICA関係者の皆様の執筆を中心にまとめたものであり、国際協力事業団の公式見解ではないことを付記いたします。

平成11年3月

国際協力事業団
国際協力総合研修所長



1149316 [0]

目 次

I	概 況	i
II	生活事情	1
1.	食生活	1
2.	衣 料	7
3.	住 宅	8
4.	医 療	9
5.	教 育	11
6.	家庭の使用人	13
7.	交通事情	14
8.	通 信	16
9.	マスコミ	18
10.	教養、娯楽、趣味、スポーツ	19
11.	その他のサービス	24
12.	観 光	25
13.	治安、緊急時の心得	27
14.	出入国手続および帰国手続	29
15.	私財の輸送、引き取り、購入	30
16.	社 交	31
17.	任国官公庁	32
18.	在外日本関係機関など	33
19.	地方都市	33

I 概況

表-1：南アフリカ共和国概況

正式国名	(和文) 南アフリカ共和国 (英文) Republic of South Africa
独立年月日	1910年5月31日南アフリカ連邦発足、1961年にイギリス連邦より離脱、南アフリカ共和国として発足。
旧宗主国	英国
政体	共和制
元首の名称	ネルソン・ロリシュラシュラ・マンデラ(Nelson Mandela)大統領 (1994年5月就任、任期5年)
位置・面積	南緯22～35度 西経17～33度 1,221 千平方キロメートル(注1)
首都	プレトリア
総人口	38百万人(1997年)(注1)
民族	コーサ族、ズールー族、ソト族、ツワナ族等のバンツール系諸族、白人、カラード、アジア人(インド系)等
公用語	アフリカーンス語、英語、バンツール諸語(ズールー語、ソト語ほか)など11言語
宗教	キリスト教、アジア系はイスラム、ヒンズー教
暦	<日本との時差> -7時間 <祝祭日> (1999年) (注2) 1月1日 新年 3月21日 人権記念日 4月2日 聖金曜日 4月5日 家族の日 4月27日 自由独立の日 5月1日 労働者の日 6月16日 青年の日 8月9日 全国婦人の日 9月24日 文化遺産記念日 12月16日 和解の日 12月25日 クリスマス 12月26日 善意の日(Day of Good will)

出所 (注1) World Development Report 1998/99 The World Bank

(注2) The Europa World Yearbook 1998 Europa Publications

1. 国土の概要

南アフリカはアフリカ大陸の最南端、南緯 22～35 度、西経 17～33 度に位置しており、全体が盆を伏せたような形に似ている。南端の喜望峰によって東はインド洋、西は大西洋に面する。国土面積は 1,221 千平方キロメートル（世銀資料、1997）で我が国の約 3.2 倍（東京書籍資料、1995）である。

東部および南東部でインド洋岸から標高 3,000 メートル級のドラケンバーズ山脈などの高地、高原が内陸部まで続き、場所によって砂漠地帯を形成して西海岸にむかってゆるく傾斜している。平均高度は 900 メートルで、ヨハネスブルクは標高 1,800 メートルである（数値は共同通信社資料、1997）。

低い所から沿岸ベルト地帯、南部台地、北部台地そして最も高いハイベルト地帯（1,220～1,830 メートル）へと 4 つの地形に分けることができる。国土の内部にスワジランド、レソトを抱える形となっており、北東はモザンビーク、北はジンバブエとボツワナ、北西はナミビアと隣接している（数値は東京書籍資料、1995）。

（参考文献）

【世界年鑑】 1997 共同通信社

【世界各国要覧 8 訂版】 1995 東京書籍

【経済貿易の動向と見通し 南アフリカ】 1995 世界経済情報サービス (WEIS)

The Europa World Yearbook 1997 Europa Publications

World Development Report 1997 The World Bank

2. 気候

国土はほとんどが亜熱帯に属しているが地域による差が大きい。1 年間の平均日照時間は 7 時間半から 9 時間半と長く、年中陽光に恵まれている。海流と高度の関係で、北半球の同緯度の地域よりも涼しく、乾燥している。ヨハネスブルクの平均気温は摂氏 17 度で、地形の関係で南北の気温差は小さくない。雨量は少なく、国土の 7 分の 1 は 1 年中ほとんど雨が降らない。夏にやや乾燥するが、雨季・乾季の区別はない。

内陸部は暑いが湿度が低く、日照時間が長い。インド洋側の東岸の方が大西洋側の西岸よりも一般に気温は高い。降雨は東部に多く、西部では少ない。年間降雨量はドラケンスベルグ山脈で 1,500 ミリメートルだが、北西部のカラハリ砂漠の近くでは 100 ミリメートル程度しか降らない。ケープタウン一帯は地中海性の気候である（以上数値は WEIS 資料、1995）。

（参考文献）

【世界各国要覧 8 訂版】 1995 東京書籍

【世界年鑑】 1995 共同通信社

【経済・貿易の動向と見通し 南アフリカ】 1995 世界経済情報サービス (WEIS)

The Europa World Yearbook 1995 Europa Publications

3. 人口

1997年の総人口は3,800万人（世銀資料、1998）である。

人口の3分の2以上（Europa Publications 資料、1993）は国土の東部の湿潤な地域や南部のケープ州に集まっている。最も人口の集中している地域はウイトウォーターズランドの鉱業地帯であり、中心都市はヨハネスブルクおよびケープタウン近郊、プレトリア近郊、ダーバン近郊である。

1991年の主要都市の人口は、ケープ半島 235.0万人、ヨハネスブルク 191.6万人、ダーバン 113.7万人、プレトリア 108.0万人、ポートエリザベス 85.3万人、ブルムフォンテイン 30.0万人である（数値はEuropa Publications 資料、1998）。

（参考文献）

Africa South of the Sahara 1994 1993 Europa Publications
The Europa World Yearbook 1998 Europa Publications
World Development Report 1998/99 1998 The World Bank

4. 略史

表-2：南アフリカ共和国略年表

年	出来事
1652年	オランダ、ケープ植民地設定。
1814年	英国・オランダ間条約により、ケープ植民地が英国に割譲。
1902年	2度にわたるボーア戦争を経て、英国、南アフリカ全土をその統治下に統合。
1910年	南アフリカ連邦独立。
1931年	英連邦内の自治領となる。
1948年	国民党政権誕生（アパルトヘイト政策の推進）。
1959年	バンツール自治促進法制定、10のホームランドを指定し、名目上の自治を与える。
1960年	シャープビル事件。
1961年	南アフリカ、英連邦から脱退（南アフリカ共和国成立）。
1976年	ソウェト蜂起。
10月	トランスカイ独立。
1977年12月	ボプタツワナ独立。
1978年	ボタ首相就任。
1979年9月	ヴェンダ独立。
1981年12月	シスカイ独立。
1984年	人種別3院制議会を定めた新憲法発効を契機として反政府運動 激化。
1986年6月	12日、ソウェト蜂起10周年を契機とする混乱の防止策として南アフリカ全土に非常事態宣言発布。
1988年2月	24日、反アパルトヘイト団体（含UDF、AZAPO）の活動禁止及制限措置を発表。

次頁へ続く

年	出来事
1989年	デ・クラーク大統領就任。
1990年 2月	2日、デ・クラーク大統領議会開会演説。 ANC、PAC等反政府団体を合法化。 マンデラ氏をはじめ政治犯釈放決定（2月11日マンデラ氏釈放）。
6月	8日、ナタール州を除き非常事態宣言を解除。 19日、分離施設法の廃止を議会で議決。
10月	18日、ナタール州でも非常事態宣言を解除。
1991年 6月	30日、アパルトヘイト根幹法（人口登録法、土地法、集団居住地法）廃止。
7月	5日、ANC全国大会でマンデラ氏が新議長に就任。
9月	14日、暴力問題についての和平協定が政府・ANC・インカタ自由党など23の政治勢力により署名される。
12月	20日～21日、CODESAの第1回会合開催。民主的新憲法の基本原則を含む宣言に署名。
1992年 3月	17日、白人有権者を対象として改革の信任を問うレファレンダムが行われ、大差をもって信任。
5月	15日～16日、CODESAの第2回会合開催。
6月	17日、ボイパトン黒人居住区で発生した暴力事件を契機としてANCはCODESA脱退を発表。
8月	ANC系のCOSATUによりゼネストが行われる。
9月	7日、シスカイにおいて大衆行動の参加者に対しシスカイ軍が発砲し、28名が死亡、約200名が負傷する事件が発生。 26日、デ・クラーク大統領とマンデラANC議長との直接会談が実現し、政府・ANC間の二者交渉が再開。
11月	26日、デ・クラーク大統領が制憲議会選挙の実施と暫定政府の設置を表明。
1993年 1月	29日、デ・クラーク大統領は国会開会演説を行い、3月初旬に複数政党交渉の再開、6月中にTECの設置、9月中に暫定憲法を採択すべく関係者と話し合っている旨発表。
2月	16～18日、ANC全国執行委員会が開催され、制憲議会選挙後の国民融和政権（制憲議会で5%以上の議席を確保した政党の得票率による比例代表）の5年以内の統治を認めることなどを決定。 20日、ANCは制憲議会選挙日程に関する複数政党間の合意、TEC・独立選挙委員会・独立報道委員会の設置、さらにかかる暫定措置を規定した法律制定、などの条件が満たされれば、対南アフリカ制裁は解除されるべき旨発表。
4月	1日、26政治勢力が参加した多党交渉フォーラムが再開。
7月	2日、多党交渉フォーラムが94年4月27日の制憲議会選挙実施で合意。
9月	7日、3人種議会が、TECの設置法案を可決。
10月	15日、デ・クラーク大統領、ネルソン・マンデラANC議長の両氏がノーベル平和賞を受賞。
11月	17日、多党交渉フォーラムの各派首脳会議を開催し、暫定憲法案を協議。

次頁へ続く

年	出来事
1993年12月	7日、制憲議会選挙まで白人政権を監視するTECが発足、3世紀にわたる白人少数支配が終結。
12月	22日、94年4月に初の全人種参加選挙を行うための暫定憲法が成立。
1994年1月	1日、黒人ホームランド4カ所の住民約750万人が南アフリカ国籍を回復。
3月	総選挙を控え、各地でデモが相継ぐ。ヨハネスブルク近郊が「争乱地域」に指定され、続いてナタール州とクワズルーに非常事態宣言が発令される。
4月	全人種参加選挙が実施され、ANCが大勝利を収める。 27日、暫定憲法が発効。
5月	10日、新大統領に ANC 議長のネルソン・マンデラ氏が選出される。 11日、マンデラ政権樹立、初閣議。 20日、新憲法を作成する上院が発足。
11月	11日、黒人の土地所有権を回復する「土地返還権法案」が上院で可決される。
1995年9月	政府はRDP白書を発表。
1996年10月	新憲法採択。
1997年2月	新憲法発効。
8月	デクラーク前大統領、国民党党首辞任。
9月	ファンスカークバイク氏、国民党第8代目党首に決定。 新政党「統一民主運動」(UDM) 旗揚げ。

(注) UDF : United Democratic Front

AZAPO : Azanian People's Organization

ANC : African National Congress アフリカ民族会議

PAC : Pan Africanist Congress パン・アフリカニスト会議

CODESA : Convention for a Democratic South Africa 民主南アフリカ会議

COSATU : Congress of South African Trade Unions 南アフリカ労働組合会議

TEC : Transitional Executive Council 暫定執行評議会

RDP : Reconstruction and Development Programme 復興開発計画

出所 「南アフリカ共和国概要」 1992 外務省

「南アフリカ情勢」 1993 外務省

「日本経済新聞」 1993年10/16、12/8、23、1994年1/1、3/13、11/12 日本経済新聞社

「朝日新聞」 1994年5月21日 朝日新聞社

【月刊アフリカ】 1、5月号 1997 アフリカ協会

Country Report:South Africa 3rd quarter 1993 EIU

Country Report:South Africa 2nd,4th quarter 1994 EIU

「WORLD YEARBOOK 世界年鑑 '98」 1998 共同通信社

5. 民族

南アフリカ共和国の人種構成は、白人 13.6%、カラードと呼ばれる混血約 8.6%、インド人を主とするアジア人約 2.6%、アフリカ系黒人 75.2%の4人種からなっており、その文化も多様である。地域的にはカラードはケープタウン、インド人はダーバンに集中しており、アフリカ系黒人はホームランドと呼ばれる一部の地域に隔離されていた。さらに白人もオランダ系（ボーア人）と英国系に分かれるので、その文化はいっそう複雑である。それぞれの民族の概要は次の通りである（数値は共同通信社資料、1995）。

ボーア人：最初に南アフリカに入植したオランダ東インド会社のオランダ人でその後本国から移民が行われた。19世紀初めの英国のケープタウン占領によって内陸に大移動し、トランスバール共和国とオレンジ自由国を建国。1910年の南アフリカ連邦結成で州に組み込まれたが、ボーア人の文化はこの両州に色濃く残っている。多くのボーア人はカルバン派に属するオランダ改革派教会の信徒でその選民思想から黒人蔑視のアパルトヘイトが生まれた。

英国系白人：内陸2州に比べ沿岸のケープ州とナタール州は、かつて英国植民地であったため、気風もよりリベラルである。アフリカ人に最後まで参政権を許したのもケープ州であった。1948年以来、国民党政権によってボーア人が南アフリカの政治権力を握っているのに対し、英国系白人は19世紀末のダイヤモンドや鉱山開発以来、主に経済界を支配している。

カラード：オランダ人入植の初期に現地人であったコイ族（ホッテントット）やサン族（ブッシュマン）、マレーから連れて来られた奴隷と混血が行われた、その子孫達である。3院制議会の中では白人側に取り込まれ、アパルトヘイト体制側に協力する人々と、逆にアフリカ人とともに反対する人々に分かれていた。

インド人：19世紀半ば、ナタール州でサトウキビのプランテーションが行われた際、インドから移入された年季契約労働者の子孫達であり、ダーバン周辺に住む者が多い。主に商業部門に進出しているが、本国の習慣をそのまま保持している。

アフリカ人：先住民族のコイ族やサン族は現在南アフリカ国内にはおらず、混血をしない純粋なサン族は隣国ボツワナのカラハリ砂漠に少数残っているにすぎない。アフリカ系黒人はバンツー系に属する。ズールー族、コーサ族、北ソト族、南ソト族、ツワナ族、ツオンガ族、ベンダ族、スワジ族の8つの言語グループにわかれ、アパルトヘイト政策によって10のホームランドに分かれて住んでいた。

(参考文献)

『国際情報大辞典』 1992 学習研究社

『世界年鑑』 1998 共同通信社

6. 言語

南アフリカの公用語は、人口的には少数者となる白人の言語であるアフリカーンス語と英語をはじめ、民族構成に比例してズールー語、コーサ語、ソト語、ツワナ語、シャンガー語、スワジ語、ベンダ語など計 11 言語（共同通信社資料、1995）がある。

17 世紀にオランダからケープ州に入植した移民の子孫は、自らをアフリカーナと称し、アフリカーンス語を話す。アフリカーンス語は、オランダ語の方言の 1 つであり、本国から隔絶した間に変化したものである。

（参考文献）

『アフリカを知る事典』 1989 平凡社

『経済・貿易の動向と見通し 南アフリカ』 1991 世界経済情報サービス

『世界年鑑』 1995 共同通信社

The Europa World Yearbook 1998 Europa Publications

7. 宗教

キリスト教、イスラム教、ヒンズー教、伝統宗教があり、白人のほとんどと黒人の 6 割（共同通信社資料、1998）がキリスト教である。その中には特に白人の多数が属しているオランダ改革派教会の他に、英国教会、黒人が多いメソジスト教会などがある。また、イスラム教はカラードやアジア人、ヒンズー教はインド人の信者が多い。

キリスト教のデズモンド・ツツ司教は政治的にも大きな影響力を持ち、政治団体間の仲裁などに活躍した。同氏はアパルトヘイト撤廃への尽力が認められ、1984 年にノーベル平和賞を受賞した。

1995 年 9 月 16 日、ローマ法王ヨハネ・パウロ 2 世は歴代法王として初めて南アフリカを公式訪問した。

（参考文献）

『南アフリカ共和国概要』 1992 外務省

『アフリカレポート』 9 月号 1993 アジア経済研究所

『日本経済新聞』 1993 年 10 月 16 日 日本経済新聞社

『世界年鑑』 1998 共同通信社

『朝日新聞』 1995 年 9 月 18 日 朝日新聞社

The Europa World Yearbook 1995 Europa Publications

8. 文化

アフリカ大陸の中では白人の入植の歴史も古く、またオランダ系と英国系の文化の上にたつ南アフリカは特色ある諸都市を発展させた。大別して内陸のトランスバル州とオレンジ自由州はオランダ系、沿岸部のケープ州とナタール州は英国系に属する。性格はオランダ系は質実剛健で頑固だが、英語系は進取的、進歩的である。

中央アフリカのサンゴ文化と同時期に栄えたファウアスミス文化は、南アフリカに中心があるが、その遺跡は、ホーンからケープまでの乾燥ステップとサバンナ地域のいたる所に散在している。石器は小形のアーモンド型ハンド・アックス、クリーバーが指標であり、片面加工のポイント、ルバロア型の石核から剥離された剥片によるスクレーパーなどの石器にも特徴がある。

南アフリカでは、ファウアスミス文化のあとを受けて、スティルベイ文化が実現し、ケープから東アフリカにいたる乾燥ステップやサバンナ地帯に分布する。この文化はファウアスミス文化と比べて、より北へと広がっている。

南アフリカには多数の遺跡が存在しており、その中には岩面彩画や刻画としてブッシュマン美術も残存している。

南アフリカは文学的出発が早く、英・米文学との影響も濃い。この分野においては、アパルトヘイト体制とのかかわりを避けることができず、当然文学のテーマも人種問題に集中し、抗議と苦難、異人種間の愛などをテーマとして、都市プロレタリア文学とも言えるものが多く生み出されている。

(参考文献)

- 『アフリカハンドブック』 1983 講談社
『国際情報大辞典』 1992 学習研究社
『世界各国要覧 8訂版』 1995 東京書籍

9. マス・メディア

南アフリカでの新聞報道は盛んであるが、その反面、規制も厳しかった。1974年10月にNewspaper Press Union (略称：NPU) が政府の強い圧力により規制法を改正し、違反したものは1万ランド (Europa Publications 資料、1993) の罰金を科せられることになったが、これに対し多くの報道関係者により非難が寄せられた。この規制の下、Publication Control Board (略称：PCB) はさらに権力を拡大し、特に書物、映画の検閲が強化された。また、82年の情報保護法は、国家安全保障を脅かす出版物に対して厳しい罰則を科した。

しかし、これらの規制は1990年2月に緩和され、さらに93年12月、報道の公平性を保証する独立メディア委員会を設立する法律が採択された。94年の全人種参加選挙後ANCが、政権担当上、伝統的な国民党 (National Party 略称：NP) の報道の自由の規制にメリットを認める可能性があるとは危ぶむ向きもあるが、その傍ら、徐々に解放路線にも向かってきている。

(参考文献)

- Africa South of the Sahara 1994 1993 Europa Publications
Country Profile:South Africa 1994-95 1994 EIU
The Europa World Yearbook 1995 Europa Publications

(1) 新聞

1995年時点での日刊紙数は17紙 (Europa Publications 資料、1998) で、多くの都市に日刊紙がある。代表的なものの発行部数は次のとおりである (数値は Europa Publications 資料、1998)。

ヨハネスブルク：『The Star (209,000部、平日、中立系)』、
『The Citizen (平日14,000部、土曜108,000部、白人向け)』、『Sowetan (平日225,000部)』、『Beeld (平日111,958部、土曜81,000部、アフリカーンス語)』、
『Business Day (41,000部、経済紙)』
ケープタウン：『The Argus (85,000部)』
オレンジ自由州：『Die Volksblad (平日28,000部、土曜23,000部)』
ナタール州：『The Daily News (85,000部)』

(参考文献)

『世界年鑑』 1995 共同通信社
『経済・貿易の動向と見通し 南アフリカ』 1995 世界経済情報サービス (WEIS)
Africa South of the Sahara 1994 1993 Europa Publications
The Europa World Yearbook 1998 Europa Publications

(2) 放送

ラジオ、テレビとも1936年に設立された公益法人の南アフリカ放送協会 (South African Broadcasting Corporation 略称：SABC) により管理されていたが、現在は全て商業ベースとなった。SABCの財源は受信許可料収入 (20%) と広告放送収入など (80%) である。SABC-Radioは週3,492時間 (Europa Publications 資料、1993) 放送している。

SABCの放送状況は以下のとおりである。

SABC-Radio：全国放送5系統、地方局2系統、部族語専門局9局

SABC-Television：地上波3系統、衛星放送 Astrasat の名称で地上波3系統と Bop-TV を放送。

1995年、ラジオ受信者は推定1,310万人、テレビ受信者は推定233万人である (以上数値は Europa Publications 資料、1998)。

ラジオは、英語、アフリカーンス語およびバンツール系の部族語で、各語グループごとに独自のプログラムが組まれている。

テレビは、1976年からSABCによって、白人を対象にカラー (PAL方式) の放映が開始された。これに加え、83年1月から黒人向けチャンネル、TV₂とTV₃がズールー語、コーザ語、ツワナ語など主要部族の言語によってスタートした。その後、92年までにTV₂やTV₃などはCOV-TVに統合され、英語とアフリカーンス語のほか9言語による放送となった。93年時点で、テレビはかつての4系統 (白人向け、有色人種向け各2系統) の代わりにTV₁、CCV-TV、TSSの3系統を放送している (数値はNHK出版資料、1994)。

TV₁の視聴可能住民は1983年で白人19%、アジア人87%、カラード83%となっており、同チャンネルでは英語とアフリカーンス語の番組をそれぞれ半分ずつ放映する方式が採ら

れている（数値は WEIS 資料、1993）。

テレビのカバレッジは SABC₁ が 76.4%、SABC₂ が 72.5%、SABC₃ が 56% である。3 チャンネルとも総合編成で、週放送時間は合計 372 時間である（数値は NHK 出版資料、1994）。

英語とアフリカンス語の M-Net はケーブルテレビのような申し込み制の有料テレビで、スポーツ、映画中心のプログラムで放映している。これは新聞社のグループの所有で、デコーダーの売り上げでかなりの成功を収めている。他の地域にも拡大しており、アフリカ大陸 37 カ国で放送され、1998 年の契約者数は約 110 万人である（数値は NHK 出版資料、1998）。

独立ホームランドではそれぞれ、独自の放送機関が放送を行っていたが、ボプタツワナのテレビ放送 Bop-TV は、1998 年 3 月 1 日、SABC に正式に合併され、衛星チャンネルとなった。

（参考文献）

【データブック 世界の放送】 1998 NHK 出版

【経済・貿易の動向と見通し 南アフリカ】 1993、1995 世界経済情報サービス (WEIS)

Africa South of the Sahara 1994 1993 Europa Publications

Country Profile:South Africa 1994-95 1994 EIU

The Europa World Yearbook 1995 Europa Publications

表-3：経済指標 [南アフリカ]

主要経済指標の 推移		(1995)	(1996)	(1997)
GDP (百万ランド*) (注1)		484,614	542,741	594,858
一人当たりGNP (ドル) (注2)		3,160	N.A.	3,400
実質GDP成長率 (%) (注1)		3.4	3.2	1.7
消費者物価上昇率 (%) (注1)		8.6	7.4	8.5
失業率 (%) (注3)		N.A.	4.4	4.5
貿易収支 (百万ドル)		1,715	2,330	1,992
輸出額(fob)*		28,843	29,685	30,374
輸入額(fob)* (注1)		27,218	27,355	28,382
主要輸出入相手国 (注4)		輸出 (1997年) 英国 (10.8%)		
		輸入 (1997年) ドイツ (13.7%)		
経常収支 (百万ドル) (注1)		-2,756	-1,715	-1,931
対外債務残高 (百万ドル) (注5)		22,291	23,590	N.A.
債務返済比率 (%) (注5)		8.8	11.1	N.A.
外貨準備高 (百万ドル) (注2)		4,464	N.A.	5,957
通貨 (1998年11月30日) (注1)	通貨単位：南アフリカ・ランド (R) 1ドル=5.6865 南アフリカ・ランド			
会計年度	4月1日～3月31日			

*南アフリカの貿易数値はボツワナ、レソト、スワジランド、及びナミビアを含む。

出所 (注1) International Financial Statistics January 1999 IMF

(注2) World Development Report 1997,1998/9 The World Bank

(注3) Year Book of Labour Statistics 1996 1996 ILO

(注4) Country Report:South Africa 4th quarter 1998 EIU

(注5) Global Development Finance 1998 1998 The World Bank

II 生活事情

1. 食生活

1-1 食料

(1) 一般事情

食料品は広く出回っており、肉、野菜、調味料など日常必要なものは容易に入手できる。

住宅地に隣接してショッピングセンターがあり、品数は豊富である。衛生状態も良好で問題はない。

日本食品を扱う商店はあるが、店舗数、品数とも限られる。

(2) 主な食料の出回り状況

米はスーパーの店頭で常時見受けられる。オーストラリア産の日本米も入手可能である。パンやスパゲッティ、マカロニなどのパスタ類も容易に入手できる。

肉類は牛、鳥、豚、羊など各種入手できる。ハム、ソーセージ類も豊富である。

乳製品は牛乳、バター、チーズ、ヨーグルトなどがある。

野菜は、タマネギ、にんじん、じゃがいも、キャベツ、トマト、きゅうり、マッシュルーム、カブ、レタス、セロリ、かぼちゃ、ナス、長ネギなどが年中豊富にある。また、ショウガ、にんにく、とうがらしなども入手できる。ごぼう、里芋、れんこん、長いも、三ツ葉、シソなどはない。

果物は季節によるが、オレンジ、レモン、桃、ぶどう、スイカ、メロン、りんご、パパイヤ、マンゴー、プラム、バナナ、キウイ、アボカド、あんず、イチゴ、ライチなどが出回る。ナッツ類ではマカデミアナッツ、ピーナツ、ピーカンナッツなども入手できる。

海産物には、いか、カキ、ムール貝、えび、ロブスター、ヘイク、キングクリップ（いずれも白身）などがある。また、東部ナタール州などで養殖されているマスは生や薫製なども手に入る。

調味料は塩、砂糖、酢、各種ソース、マヨネーズ、からし、トマトケチャップ、タバスコ、スープの素などがどこでも入手できる。しょうゆ、ごま油は大きなスーパーにある。しょうゆは国産品と台湾などからの輸入品、また日本製品も入手できる。

食用油はサラダオイル、オリーブオイルなどがどこでも入手できる。

酒類はビール、ワイン、ウイスキー、ブランデー、リキュールなど各種豊富に入手できる。

ミネラルウォーターも出回っている。水道水も飲用できるため割高であるが、ほとんどの邦人宅ではミネラルウォーターを利用している。

入手できないのは、ハヤシライスなどのレトルト食品、お好み焼き粉、乾燥青しそ、味ぽん、七味、ホットケーキの素、すり・いりゴマなどである。

(3) 食料の入手

スーパー、ショッピングセンター、肉店、デリカテッセンなどがいたるところにあり、食料品の入手は容易である。大規模ショッピングセンターにはいくつかのスーパーが一緒に出店している。商店は平日は午後5時、土曜、日曜は午後3時頃までの営

業が多い。主な店は次のとおりである。

<プレトリア>

スーパーマーケットなど (いずれもチェーン店)

Woolworths (品質が良い。高級スーパーマーケット)

Macro (会員制の卸売で安値。プレトリア南部郊外 N1 沿い)

Pick'n Pay (南アで最大のスーパーマーケットチェーン)

Hyperama (郊外の Menlyn Park にある)

Trade Centre(会員制の卸売。プレトリア北部郊外 M1 沿いにある)

Checkers (食料品が豊富)

OK (中級品が多い)

SPAR(毎日営業)

専門店

HOXIES (海産物)

所在地：Brooklyn Mall 内地下

電 話：(012)327-3311

MERINO SLAGTERY (肉)

所在地：417 Hilda St., Hatfield

電 話：(012)43-4653

BELA VISTA MARKET GARDEN (野菜)

所在地：Brooklyn Mall 近くの Brooklyn Circle の北。Fehresen St. 沿い。

電 話：(012)46-7430

備 考：当地産の野菜、果物類が豊富。

<ヨハネスブルグおよび近郊>

The CODFATHER (海産物)

所在地：1 ST Ave. Corner Rivonia Rd., Morningside, Sandton

電 話：(011)803-2077

MEDIERRANEAN FISH (海産物)

所在地：478 Jules St., Malvern Johannesburg, M-14 と 20th St の交差点付近

電 話：(011)615-5760

FISHERMANS DELI (海産物)

所在地：Dunkekd West Shopping Centre, Dunkeld

電 話：(011)442-6263

FISHERMANS DELI Shop (海産物)

所在地：L5, Village Walk, Maude St., Sandown, Sandton

電 話：(011)883-9535

German Swiss Butchery (肉屋)

所在地：177 Hendrik Verwoerd Drive、Randburg

電 話：(011)789-4466

備 考：スライスの牛肉、豚肉を販売 (邦人対象)

日本食品

日本食品を扱う店は限られるが、中華食品店で扱っている場合がある。

主な店は次のとおりである。

<プレトリア>

日記海鮮

所在地：191 Corobay Avenue, Menlyn Shopping Centre, Waterkloof Glen.

電話：(012)348-3182

備考：小さな店だが、中華食品、新鮮な豆腐、中国野菜、大根、ほうれん草など入手可。しょうゆ、インスタントラーメン、お菓子（プリッツ、ポッキー、コアラのマーチなど）、日本酒、オーストラリア産日本米、みりん、キューピーマヨネーズ、のり、かつお節、練りワサビ・カラシ、片栗粉、コーンスターチ、干し椎茸、乾うどん、そば、そうめん、春雨、カレー粉などがある。

<ヨハネスブルグ>

Chinese Supermarket Shop

所在地：60-62 Killaney Mall, 60 Riviera Rd., Killarney, Johannesburg (M-1でプレトリアからヨハネスブルグに向かう途中右手)

電話：(011)646-2536

備考：数ある中華食品店のうち最も品揃えが豊富である。海苔、ふりかけ、昆布、わかめ、納豆、佃煮、もち米、ごま、干し椎茸、日本そば、うどんなどがある。韓国食材やタイ料理の調味料などもある。

酒類は、スーパーマーケットで購入できる他、ボトルショップ（酒類専門店）には種類が豊富にある。ただし、日曜日は酒類の販売は禁止されている。

日本から持参して貯蔵しておくといふ食料品は、ひじき、カレー粉、白玉粉、片栗粉、缶詰類（魚、油揚げ、タケノコ、しらたき、こんにゃく）、漬物類（らっきょう、梅干し、たくあん、奈良漬）、切り干し大根、日本茶、麦茶などである。

また、独立家屋の場合には大きな庭を利用して、日本から持ってきた種で野菜を栽培することもできる（ゴボウ、白菜、大根、青じそ、春菊、三つ葉など）。

1-2 食器、調理器具など

(1) 食器、調理器具などの入手

食器、調理器具は一通り揃う。調理には主に電気が使われており、ガスは一般的ではない。

冷蔵庫、電子レンジ、トースター、電気ポット、コンロなど台所用家電製品は全て市販されている。大型ショッピングセンター内に電化製品コーナーがあるほか、電化製品専門店として GAME DISCOUNT WORLD、DION などがある。

和食器は品数が極めて少ない上、値段も高いため、持参したほうがよい。壊れやすい急須はスペアもあると便利である。茶碗、箸などは少量であれば、Rosebank の日本食レストラン「王将」でも販売している。

(2) 日本から持参した方がよい食器、調理器具など

おでん用鍋やすき焼き鍋などの特殊なものは持参した方がよい。包丁類も使い慣れたものを持参した方が便利である。オーブトースター、皮むき器、オイルポット&オイルフィルター、流しの三角コーナー、冷蔵庫の脱臭剤などは入手不可能なため持参した方がよい。

電圧は240ボルト、50ヘルツである。日本仕様製品を持参する場合は変圧器（トランス）が必要である。プラグの形状は日本と異なり、変換が必要となるが、日本のプラグから直接変換できるアダプターは売られていない。その対策として、丸型2ピンへのプラグアダプターを日本からいくつか持参し、当地で丸型2ピンからの変換アダプターを購入するとよい。丸型2ピンのアダプターに加えて、日本仕様のテーブルタップもあると便利である。なお、日本で南アフリカ用として売られているBF Type角型3ピンのプラグは南アフリカでは使用できない。

1-3 外食

(1) 飲食店

移民の国でもあるため、各国の料理が本場に近い味で楽しめる。イタリア料理を始め、ギリシャ料理、ポルトガル料理、インド料理、中華料理の店などが数多くある。

南アフリカ料理は、多種の食材（インパラ、ダチョウ、ワニなどの野生動物）を使った、マレー、インド料理をミックスしたスパイシーな味付けのゲームと呼ばれるものが主である。

ブライと呼ばれる屋外のバーベキューや、サバンナの中でたき火を囲んでのボマディナーなども趣がある。

レストランは、大抵夜10時頃には閉店する。また、昼食と夕食の間も閉店する。ほとんどのレストランでは酒を出すのが、ライセンス制のため、酒の有無を気にする場合は確認したほうが無難である。酒を出さない店へは持ち込むことができる。どの店も衛生状態は良好である。週末は混み合うので予約したほうがよい。

高級店以外は特に盛装する必要はないが、どんな店であってもディナーにTシャツやショートパンツ、サンダル履きは禁物である。カフェでのランチはカジュアルな服装でもかまわない。

サービス料を取らないため、料金の10パーセント程度をチップとして置くのが一般的である。パブなど、カウンターから直接受け取るようなところではチップは不要である。主なレストランは次のとおりである。

<プレトリア>

南アフリカ料理

GERARD MOERDYK

所在地：752 Park Street, Arcadia

電話：(012)344-4856

THE TRAIN

所在地：Old Pretoria Rd., Halfway House, Midrand

電話：(011)805-1949

イタリア料理／フランス料理

LA PERLA

所在地：Didacta Building 211, Skinner Street

電話：(012)322-2759

FELLINI

所在地：Waterkloof Shopping Centre

電話：(012)346-2704

CHAGALL

所在地：Maingate at Fountains Caravan Park

電話：(012)341-7511

LA MADLEINE

所在地：Esselen St., Sunnyside

電話：(012)44-6076

中華料理

TIEN CHU CHINESE RESTAURANT (天厨大酒楼)

所在地：Lynwood Rd., The Willows

電話：(012)807-0508

HONG KONG RESTAURANT (香港大酒楼)

所在地：Shop 29 Brooklyn Mall

電話：(012)46-9211

CAN TON (広東)

所在地：1 st Floor Alkantrant Sanlam Centre

電話：(012)47-6426

TIEN TIEN CHINESE RESTAURANT (天天酒楼)

所在地：Faerindale, Frieglen

電話：(012) 991-0405

CAPITAL CHINESE (富都酒楼)

所在地：BLOCK4 No.2 HAFIELD SQUARE

電話：電話(012)342-8022

日本料理

SOUTH EAST RESTAURANT (東南)

所在地：Lynwood Rd., Tierpoort, Pretoria East

電話：(012)809-0090

<ヨハネスブルグ>

南アフリカ料理

LEIPOLDTS

所在地：Pavilion Shopping Centre, Rivonia Rd., Sandton

電話：(011)804-7055

中華料理

LIEN WAH

所在地：Rosebank Hotel, Tyrwhitt Ave., Rosebank

電話：(011)447-2700

日本料理

大和

所在地：196 Oxford Rd., Illovo, Sandton

電話：(011)880-9781

だるま

所在地：Park Gallery 84 Corett Drive, Melrose North

電話：(011)447-2260

王将

所在地：Upper Level, The Mall, Rosebank

電話：(011)442-9196

魚美味（ととうま）

所在地：1 ST Ave. Corner Rivonia Rd., Morningside, Sandton

電話：(011)803-2077

TOKYO TEPPANYAKI & SUSHI BAR

所在地：30a Sandton Square, Sandton

電話：(011)784-3156

(2) その他の飲食店

該当情報なし

2. 衣料

2-1 衣料

(1) 一般事情

全般に乾燥した温暖な気候である。プレトリア、ヨハネスブルグは南回帰線の南下にあるが、高度約1,700mにあるため比較的過ごしやすい（年間平均気温17度）。真冬（5月～7月）には朝晩0度近くなることもあり、暖房器具を使用している。冬でも日中は暖かく、衣服は日本の春・秋のもので対応できる。日中と夜の気温差があるため、夜間の外出用にセーターやジャケットもあるとよい。

(2) 日本から持参した方がよい衣料

女性の小さいサイズのパンプスやサンダルはない。その他は、上着、下着類ともに品質のよいものが売られており、必ず持参しなければならない物はない。

(3) 任国で調達した方がよい衣料

デザイン、サイズなどにこだわらなければ、大抵の物は当地で調達可能である。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

2-2 礼装

(1) パーティー

当国や日本の祝祭日など、公的な行事として行われるパーティーでは、男性は長袖のワイシャツ、ネクタイに背広着用である。背広の色は特にこだわらなくてもよい。女性はワンピースかツーピースが一般的である。ロングドレスや和服を着用することは少ない。和服を着ると喜ばれるが、JICA関係者にはあまり必要性がない。

邦人同士や友人に招かれた時はふだん着でよい。

(2) 式典

各種式典や冠婚葬祭用に、公式用のスーツを1揃え持参するとよい。

(3) 冠婚葬祭

同上。

(4) その他の留意点

パーティーやディナーの場所、時間帯によっては正装の必要があるので、事前に確認すること。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗濯

ショッピングセンターなどにあるクリーニング店でドライクリーニングが可能である。また、ランドリーサービスとして、洗濯からアイロンまで行う店もある。洗濯を任せる家政婦／夫を通いで雇うこともできる。

(2) 仕立て、修繕

該当情報なし。

(3) 保管

湿気は少ないのでカビの心配はない。防虫対策は必要である。引き出し用や洋服ダンス用の防虫剤を持参するとよい。

3. 住宅

3-1 住宅事情

(1) 一般事情

住宅の種類には、独立家屋、アパート、タウンハウスがある。

3-2 ホテル事情

JICAが利用しているホテルは次のとおりである。

Holiday Inn Garden Court シングル1泊 299ランド

Hatfield Protea Lodge シングル1泊 230ランド

3-3 住宅の探し方

不動産業者に依頼するか、新聞に掲載される不動産情報を見て探す。

JICA関係者は次の不動産業者を利用している。

Ambassador Letting Estate

電話：(012)348-1574

3-4 住宅の選定上の留意点

治安の良い地区で、防犯設備が整備されている物件を選ぶこと。

3-5 住宅の契約

入居に際して契約書が交わされる。契約期間は通常1年で、1年ごとに更新する。

契約に際して保証金を要求される場合がある。家賃の額や支払い方法、解約通知などは契約による。

3-6 電気、ガス、水道などの手続と管理

電話代、水道代、電気代は毎月請求書がくる。ゴミは週に1回、回収車が来る。

3-7 その他

家屋、家財の保険がある。車の保険とセットになっていることもある。

冬は寒く、オープンスペースで暖まりにくいいため、大型の石油ストーブを持参するとよい。組立式下駄箱やキッチンマットもないので、持参するとよい。

4. 医療

以下の記述は、執筆者が現地滞在経験に基づきまとめた一般参考情報で、必ずしも医療専門家の校閲を受けたものではありません。したがって、詳細（特に緊急時の対応や予防薬の服用方法など）については、事前に医療関係者から専門的アドバイスを受けるようにしてください。

4-1 赴任前の準備

(1) 予防接種

日本から直接入国する場合は、予防接種の必要はない。

(2) その他の準備

一般的な内服薬、外傷薬、皮膚薬、駆虫薬などは当地でひとつとおり購入可能である。ただし、小児用の医薬品は持参した方がよい。

眼鏡、コンタクトレンズも購入できる（使い捨てコンタクトレンズも入手可能）。

4-2 医療事情

(1) 医療機関

総合病院の他、小規模のクリニックがある。

(2) 緊急時の対応と措置

私設の救急搬送サービスを利用できる。

4-3 医薬品など

(1) 携行することが望ましい医薬品

JICA 配付の携行医薬品のリストにある物で十分である。特に持病がある場合は、治療薬を必要量持参すること。

(2) 任国で調達できる医薬品

医薬品は国産品のほか、各国からの輸入品もある。

医師の処方せんにより、ほとんどの医薬品が購入できる。また、鎮痛剤などの一般的な薬は薬局で購入できる。妊娠検査薬も入手可能である。

(3) 任国で調達できる衛生用品

生理用品、避妊具、包帯、ガーゼなどは調達可能である。生理用品の質には較差があるが、良質な物はきわめて優秀である。タンポンやパンティーライナーなどもある。ただし、夜（長時間）用は日本製品が最も安心である。

幼児用のジェルタイプ歯磨きはない。

(4) 医薬品を使用する場合の留意点

該当情報なし。

4-4 妊娠、出産、育児

(1) 妊娠した場合の対応

設備面、技術面ともに当地での出産に問題はない。

(2) 出産後の対応

該当情報なし。

(3) 育児

育児用品はすべて調達できる。紙おむつも（はかせるタイプはない）。

4-5 手術

- (1) 任国で可能な手術
高度な手術も当地で可能である。
- (2) 手術設備の状況
基礎的な設備は整っている。
- (3) その他の留意点
該当情報なし。

4-6 任国でよく見る傷病

- (1) 一般の疾病
1年中空気が乾燥しており、高地であるため、人によっては酸素の薄さを感じる。気圧が低く、眠りが浅い、疲れやすい、激しい運動がつらいと感ずることがある。
- (2) 風土病・伝染病
該当情報なし。
- (3) 有害動物、病害虫
該当情報なし。

4-7 保健衛生

- (1) 飲料水
水道水を飲むことができる。ミネラルウォーターも市販されている。
- (2) 濾過器の入手
購入可能であるが、水道水の質がよいので特に必要はない。
- (3) その他の留意点
高地であるため、比較的マラリア感染の心配は少ないが、地域によっては夏季に流行することがある。その地域へ行く際はマラリア予防薬を服用した方がよい。

5. 教育

5-1 教育事情

(1) 一般事情

ジュニアスクール（7年制）、高校（5年制）、各種専門学校、大学がある。

(2) 日本人学校

ヨハネスブルグ日本人学校がある。プレトリアからは遠く、通学は困難である。

所在地：12-20 Caledon Road, Emmarentia, Johannesburg

電話：27-11-888-1530

F A X：27-11-888-1209

在籍：小学部 54名、中学部 13名(1998年5月31日現在)。

(3) 現地校、外国人学校

アメリカンスクール、プレトリア地区のウィップス（名門校。ブルックリン、男子）、DSG（ハットフィールド、女子）、クロフォード（グローエンクルーフ、共学）などがある。

(4) 幼稚園

各種の幼稚園がある。

5-2 入学手続および授業料

(1) 日本人学校

入学金：小学部 1,900 ランド、中学部 2,000 ランド（小学部からの進学者は割引有）

教材費：小学部 450 ランド、中学部 400 ランド

PTA 会費：120 ランド／年（小・中共）

スクールバス：2,640 ランド／年（小・中共、利用者のみ）、プレトリアからの便はない。

（『海外子女教育』1998年3月号より抜粋）

(2) 現地校、外国人学校

該当情報なし。

(3) 幼稚園

該当情報なし。

5-3 教育関係施設

(1) 図書館

該当情報なし。

(2) スポーツ施設

公営のスポーツ施設は少ない。会員制のヘルス&ラケットクラブでラケットボールコート、プール、エアロビクススタジオなどが利用できる。

スイミングスクール（大人、子供）、ジャズダンス、ボールルームダンス、空手の個人レッスンなどもある。

5-4 家庭学習

(1) 家庭教師

該当情報なし。

(2) 通信教育

海外子女教育振興財団が行っている海外向けの通信教育がある。小学校、中学校の国語、数学、理科、社会などが受けられる。詳細は下記に問い合わせるとよい。

海外子女教育振興財団

インターネット：<http://www.joes.or.jp>

東京本部

住所：〒 105-0000 東京都港区虎ノ門 1-21-17 虎ノ門NNビル 6階

電話：03-3580-2521

関西分室

住所：〒 530-0001 大阪市北区梅田 1-3-1-200 大阪駅前第一ビル 2階

電話：06-6344-4318

(3) 携行した方がよい家庭用学習教材

該当情報なし。

6. 家庭の使用人

6-1 一般事情

洗濯、子守りなどを任せる家政婦／夫や、庭師を雇う家庭がある。住み込み、通いいずれも可能である。新聞に紹介広告が出るが、信頼できる人からの紹介が望ましい。家財の持ち出しなどのトラブルがないよう、人選は慎重に行うべきである。

6-2 運転手

(1) 雇用

一般家庭で運転手を雇用することは少ない。

(2) 日常管理

該当情報なし。

(3) 教育指導

該当情報なし。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

6-3 家政婦／夫

(1) 仕事の種類と人数

仕事内容は、清掃、ベッドメイキング、洗濯、アイロンがけ、食器洗いと片づけ、子守、給仕などである。原則として料理はしない（できる人がいない）。

(2) 雇用

雇用方法には、友人や知人の紹介、新聞の広告欄の利用などがある。

面接を行い、こちらの希望を説明する。採用予定者は身上調査をする。雇用者負担で健康診断を受けてもらい、健康状態を確認する場合もある。雇用契約は書面にして取り交わすことを勧める。

勤務形態は、通い、住み込みのいずれも可能である。一般には月～金曜日、一日9時間（昼休含む）拘束で、土・日曜日・祝祭日は休日となる。

(3) 日常管理

制服と靴を支給する。

有給休暇は4週間／年が一般的である。4月のイースター、12月のクリスマスには連続休暇を与え、ボーナスを支給する場合もある。

6-4 庭師、ガードマンなどの雇用

(1) 雇用

庭師は通いで雇用の一般的なものである。独立家屋では芝刈りや除草を不定期に依頼することが多い。

ガードマンの雇用は一般的ではなく、警備会社と契約（アラーム設置や定期的なパトロール）するケースが多い。

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

公共交通手段としてバス、ミニバス、タクシー、レンタカー、鉄道、航空がある。道路は整備されており、自家用車は一般にひろく利用されている。

バス……市内と長距離の運行ルートがある。市内バスは本数が少なく、運行終了時間が早いため不便である。長距離バスは主な大都市間を運行している。代表的なバス会社は、Translux と Grayhound である。

ミニバス……乗合タクシーとして市内および市外を頻繁に走っている。車内の治安が悪く運転が荒いことに加え、各会社間の抗争事件が多発しており安全ではない。

タクシー……台数が少ない。流しのタクシーは見つからないので電話で呼び出す。料金は 2.80 ランド/Km である (1995 年 10 月現在)。待機は 1 時間につき 18 ランド、運転手へのチップは料金の 1 割程度である。プレトリア内の主なタクシー会社は、RIXI MINICAB (TEL:325-8072)、NEW ERA TAXI (TEL:320-5751) である。

鉄道……近距離列車と長距離列車が運行している。近距離は通勤に利用されているが、スリや強盗事件などがあり治安は悪い。長距離鉄道は、夜行で主な大都市間を結んでおり、本数は 1 日 1 本程度である。1～3 等車と寝台車がある。

プレトリア～ケープタウンを週 3 回運行しているブルートレインは、観光列車として世界的に有名であり、かなり前からの予約が必要である (TEL:011-774-4469)。

ブルートレインを除き、以上の公共交通機関は、治安面を考慮して邦人の利用は薦められない。

航空……南アフリカ航空(SAA)、COM AIR、SUN AIR が大都市間を運航している。値段およびサービスは各社により様々である。

(2) 自家用車を利用する場合

日本と同様に車両は左側通行である。速度制限は一般道路が時速 100 キロ、市街地が時速 60 キロ、高速道路は時速 120 キロである。高速道路は一部を除いて無料である。道路には番号の標示があり、走行しやすい。

信号無しの 4 ストップとサークルの交差点があり、慣れるまで注意が必要である。また、郊外の追い越し禁止区間などで強引に追い越しをかけてくる場合があるが、この場合は路肩に寄って追い越させるのがルールとなっているようである。

ガソリンはどのスタンドでも同じ値段である。24 時間営業のスタンドも多い。セルフサービスはない。ハイオク、無鉛などを指定すること。タイヤの空気入れやオイルの点検、水の交換などのサービスもある。地方ではスタンドの数が限られるので、早めの給油が必要である。

緊急時のサービスとして、South African Automobile Association (AA) がある。AA は日本の JAF のようなものであり、急な故障の際に役立つ。

South African Automobile Association (AA)

電 話：(011)407-1000

備 考：入会金 45 ランド、年会費 174 ランド。

(3) レンタカーなどを利用する場合

JICA 指定のレンタカー会社が利用できる。

INTERNATIONAL CHAUFFEUR DRIVE……電話：012-342-3020

(4) 道路地図

Map Studio 発行の道路地図が詳しい。大きい書店で購入できる。また、South African Automobile Association (AA) 発行の『AA City and Regional Guide』が無料で入手できる。

7-2 交通事故

(1) 対処方法

民間の救急会社

Ambulance De Vries ………電話：(012)323-0323

(2) 救急病院

Muelmed Hospital ………電話：(012)44-2362

H F VERWOERD Hospital……電話：(012)354-1000

(3) 盗難

カージャック（ハイジャックともいう）が頻発しており、駐車中はもちろんのこと、走行中も注意が必要である。駐車中はギアロックをかけ、カージャック防止アラームを必ずセットするなど盗難防止措置をとること。カーステレオが取り外せる場合は、グローブボックスにしまう。これらの盗難防止措置をせずに盗難に遭った場合、保険金が下りないことがある。

停車中に襲われることもあるので、窓を閉め、周りの気配に注意すること。盗難に遭った場合は、警察に行きポリスレポートを取得する。保険で処理できる場合は、その後保険会社に連絡する。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

駐車違反、速度違反、信号無視には罰金が科せられる。速度計測器や信号監視ビデオが信号機や高速道路上に取り付けてあり、違反すると罰金支払い命令が送られてくる。また、路上で取り締まりを行っている場合もあり、違反すると違反キップと罰金支払い命令が出される。

(2) 対処方法

違反しないよう心がけること。

7-4 車の修理

(1) 部品

日本車、欧米車の各ディーラーがあり、部品の入手が可能である。

(2) 修理工場

各ディーラーのサービス工場と個人の修理工場がある。技術水準は高い。

8. 通信

8-1 電話

(1) 一般事情

電話はかなり普及しており、旧黒人居住区や農村を除き、ほとんど設置されている。電話料の請求書は1～2ヶ月遅れで指定の住所に送られてくる。最寄りのTelkomサービスセンター、郵便局、Pick'n Pay スーパーマーケットなどで支払う。支払期日を過ぎると延滞金が課せられる。

(2) 国内電話

ダイヤル直通でどの地域にもかけられる。料金は24.1セント（公衆電話からは40セント）が基本料金で、50キロごとに基本料金あたりの通話時間が異なる。50キロまでは180秒、100キロまでは19.3秒である。プレトリアの場合、市内通話は180秒、ヨハネスブルグには29.3秒までが基本料金となる。

19:00～7:00と週末（全日）は、基本料金時間が2倍となり割安である。

(3) 国際電話

ダイヤル直通で利用できる。09が接続番号である。

例えば東京へは09-81（日本）-3（0を除いた市外局番）-XXXXX-XXXXXとなる。

KDDのジャパンダイレクトがあり、オペレーターコール（TEL:0800-99-0008）、クレジットカードコール（TEL:0800-99-0081）を利用できる（南ア国内通話は無料）。

KDD「How to dial（南アフリカ編）」…<http://www.kdd.co.jp/howto/27.html>

8-2 電信

(1) ファクシミリ

一般の電話回線に接続できる。電器店で購入できる。

(2) テレックス

該当情報なし。

(3) 電報

国営電話会社Telkomが扱っている。

(4) インターネット

下記の会社が南アフリカにアクセスポイントを持っている。詳細は各社に問い合わせること。

GOL（グローバル オンライン ジャパン株式会社）

<http://pps.asahi-np.co.jp/prov/light/rec/38950187.htm>

〒160-0023 新宿区西新宿 5-3-2 インペリアルビル

TEL：03-5334-1710、FAX：03-5334-1711

メールアドレス（問い合わせ、入会用）：sales@gol.com

STARR DIRECT（スタアダイレクト株式会社）

<http://pps.asahi-np.co.jp/prov/light/rec/20261830.htm>

〒240-0005 横浜市保土ヶ谷区神戸町 134 YBP ウエストタワー1F

TEL：045-332-6780、FAX：045-332-6771

メールアドレス（問い合わせ、入会用）：info@s-direct.com

IBM インターネット接続サービス (ネットパスポート) 広報
<http://pps.asahi-np.co.jp/prov/light/rec/67794770.htm>
〒106-8711 港区六本木 3-2-12
TEL : 0422-42-8625 、 FAX : 03-3664-4583
メールアドレス (問い合わせ用) : helpdeskj@ibm.net

MIND インターネットサービス (三菱電機情報ネットワーク株式会社)
<http://pps.asahi-np.co.jp/prov/light/rec/92788308.htm>
〒102-0083 千代田区麹町 1-6-2 アーバンネット麹町ビル
TEL : 03-5276-6823、FAX : 03-5276-6426
メールアドレス (問い合わせ用) : info@mind.ad.jp

GIGANET (ビジネスネットワークテレコム株式会社)
<http://pps.asahi-np.co.jp/prov/light/rec/8071465.htm>
〒111-0053 台東区浅草橋 3-8-5 31 山京ビル 6F
TEL : 03-5687-0307、FAX : 03-5687-6009
メールアドレス (問い合わせ用) : sales@giganet.net
(自動応答) : info@giganet.net
(入会用) : sales@giganet.net

Club Internet Pretoria
TEL : (012)47-4075
備考 : 年額 960 ランド

8-3 郵便

(1) 一般事情

日本からの送付は船便で3ヶ月間かかったり、不着のケースもあり、郵便事情はよいとはいえない。配達方法には私書箱と宅配があるが、私書箱の利用が一般的である。郵便局の執務時間は月～金曜日の8:30～16:30、土曜日の8:00～12:00である。私書箱は常時利用可能である。EMSも扱っている。

(2) 課税

該当情報なし。

9. マスコミ

9-1 新聞

(1) 主な日刊紙

英語日刊紙として『The Star』、『The Citizen』、『The Daily News』などがある。また、プレトリア地方紙として『Pretoria News』がある。同じく英語紙で、黒人の間で広く読まれているのは『The Sowetan』である。

アフリカンス語紙には『Die Beeld』がある。

新聞は宅配の他、書店でも購入できる。路上販売もしている。

(2) 本邦日刊紙

日本からの新聞はOCS経由で入手できる。

(3) 欧米紙

書店で販売している。

9-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

FM、MWともチャンネルは多数ある。チャンネルガイドは新聞に掲載されている。英語が一般的であるが、その他の言語の専用チャンネルもある。

(2) ラジオジャパン

日本語放送は、SW 17.885 (17:00~18:00)、15.355 (10:00~11:00) など。周波数は変更されることがあるので確認すること。

NHK 国際局編成部

住所：〒150-8001 東京都渋谷区神南 2-2-1

電話：03-3465-1111

また、インターネットでも番組表を含む情報提供サービスが行われている。

<http://www.nhk.or.jp/rjnet/>

(3) 聴取可能なその他の外国放送

BBC ワールドサービスは MW1197MHz、SW11.86MHz、VOA は MW909MHz、SW13.6MHz で受信できる。番組案内は新聞に掲載される。そのほか、短波によりドイツ、フランス、スペイン、アラビア、スワヒリなどの言語による放送が聴ける。

9-3 テレビ

(1) テレビ放送局

国営の南アフリカ放送協会 (SABC) が3チャンネルある。テレビを所有する場合はライセンス料を支払う必要がある。有線と衛星チャンネルもある (有料)。

(2) テレビ受信

アンテナを使用している家庭が多いが、受信状態は良好である。

10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ

10-1 映画、演劇

(1) 映画館

大きなショッピングセンター内には映画館があり、複数の劇場をもっている。主にアメリカ、英国などの新作を上映している。座席指定制で、電話予約もできる。

新聞各紙に上映作品、上映時間、料金などが掲載される。

アメリカ、英国以外の映画は、Rosebank にある The Mall 内の映画館で上映されることが多い。

(2) 劇場

プレトリアの STATE THEATRE でオペラ、ミュージカル、クラシックコンサートなどが催される。年間メンバーシップ (VIP CLUB、2,800 ランド) に加入すると、無料チケットや優先予約などの特典が得られる。

10-2 出版、書籍

(1) 一般事情

英語、AFRIKAANS (アフリカーンス) 語、バンツール諸語 (Zulu、Sotho、Xhosa など) で書かれた書籍が出版されている。スポーツ、ファッション、経済などの各種雑誌は主に英語で出版されている。英国やドイツ、アメリカの雑誌も豊富にある。

(2) 書店

CNA (Central News Agency) チェーンがあり、主なショッピングセンター内にある。英語を中心に各種言語の本が一つの書店で売られている。アフリカーンス語専門の書店、ドイツ語やヘブライ語の本を中心に扱う書店もある。日本語書籍はない。

10-3 語学学習

(1) 語学学習施設

Pretoria Technical College (週2回、夕方6時~9時) または、University of South Africa の語学コース (能力別小人数編成) がある。

(2) 家庭教師

Louisa Neihaus-Vitolo (TEL:011-465-0855) ではグループレッスンおよび個人レッスンがある。費用は相談による。

10-4 文化活動、文化施設

(1) 一般事情

プレトリアおよびヨハネスブルグには数多くの博物館、美術館などがあり、南アフリカの歴史や自然についての展示品を見ることができる。

毎年9月にはヨハネスブルグで芸術祭があり、音楽や演劇の催しがある。

<プレトリア>

PAUL KRUGER HOUSE

所在地： Church Square 近く。

備考：ポール・クルーガー初代大統領の家を博物館に使用している。開館は月~土 8:30~16:00、日曜 11:00~16:00。入場料 3 ランド。

MELROSE HOUSE

所在地：Burgers Park 近く。

備考：1886年に建てられたビクトリア調の建物。1902年のボーア戦争終結の
和平協定が結ばれた場所。当時の家具調度品が展示されている。開館は
火曜～土曜 10:00～17:00（木曜は～20:00）、日曜 12:00～17:00。
入場料 2ランド。

TRANSVAAL MUSEAM OF NATURAL HISTORY

備考：自然科学関係が中心の博物館。南アフリカの動物、特に鳥類のコレクシ
ョンが充実。開館は月曜～土曜 9:00～17:00、日曜 11:00～17:00。
入場料 2.5ランド。

PRETORIA ART MUSEUM

備考：南アフリカの各年代の美術品を展示。開館は火曜～土曜 10:00～17:00
（水曜は～20:00）、日曜 13:00～18:00。入場料 2ランド。

NATIONAL ZOOLOGICAL GARDENS

備考：世界でも最大級の動物園。園内にケーブルカーがあり、高台で市街地を
一望できる。カフェテリアもある。開園は毎日 8:00～17:30。
入場料 11ランド。

<ヨハネスブルグ>

MUSEUM AFRICA

備考：写真などを通して南アフリカの歴史を知ることができる。石に描かれた
絵のコレクションが充実。タウンシップの模型もある。ダウンタウンに
あるので治安に注意。開館は火曜～日曜 9:00～17:00。入場料 2ランド。

NATIONAL MUSEUM OF MILITARY HISTORY

備考：南アフリカを舞台にした戦争の歴史と古い武器を展示。隣に動物園があ
る。開館は毎日 9:00～16:30。

(2) 日本・友好協会などの有無と活動内容

日本大使館主催で、日本文化を紹介する「日本週間」が催される。コンサートや日
本映画の上映会もある。内容は日本人会新聞に告知される。

(3) その他の文化活動、文化施設

BRITISH COUNCIL(011-403-3316)、GERMAN LANGUAGE & CULTURAL INSTITUTE(012-
348-4566)、ALLIANCE FRANCAISE(フランス文化協会 012-343-6563)がある。

10-5 写真、ビデオ

(1) 写真

フジ、コダック、ポラロイド用などのフィルムが入手可能である。価格は 36 枚撮
りで 15 ランド程度である。DPE サービスは大きなショッピングセンターに入ってお
り、サービス内容は日本と同様である。カメラ専門店もあるが日本の大型店のような
品揃えではない。

(2) ビデオセット

PAL 方式を採用している。この方式のビデオ機器は電器店で購入できる。日本で録
画したテープを再生する場合は、マルチシステムのビデオ機器を持参すること。

8ミリのVTRカメラもあるが割高である。

(3) 各種テープ

ショッピングセンター内の電器店やハードウェアコーナーで録音テープ、録画テープが購入できる。録音テープは90分用で7ランド、録画テープ180分用が12ランド程度である。NTSC方式のテープはない。

録画済みテープはCDショップや書店にある。レンタルビデオ店はショッピングセンターにあり、夜遅くまで営業している。映画のビデオが多い。日本からのビデオテープの受け取りは不可能である。

10-6 音楽鑑賞、演奏、民族楽器

(1) 音楽会、コンサート

地元および外国からの音楽家による演奏会がある。クラシックはSTATE THEATRE（「10-1(2)」参照）で、ポピュラーミュージックはヨハネスブルグで上演される機会が多い。

ヨハネスブルグのMARKET THEATREはコンサート会場として有名である。また、パブにはジャズのライブを行うところもある。

コンサート情報は『The MAIL & GUARDIAN』、『The SATURDAY STAR』などの紙上に詳しく掲載されている。ショッピングセンターにあるCOMPU TICKETではコンサート情報の入手やチケットの購入ができる。

(2) コーラス、演奏グループ

日本人会にコーラス部がある。

(3) ピアノなど

MUSICA INSTRUMENTS

備考：ピアノ、オルガン専門店。レンタルも可能。

電話：(012)21-8280

(4) CD、レコードなど

CD、ミュージックテープはショッピングセンター内に専門店がある。また、書店でも販売している。CDは新譜が100ランド、ミュージックテープは35ランド位である。クラシックの作品は少ない。

(5) 民族楽器

該当情報なし。

(6) その他の楽器

該当情報なし。

10-7 手芸、絵画、美術工芸など

(1) 手芸

刺しゅう、編物、ビーズ手芸が盛んである。毛糸、編み針など各種手芸用品も入手可能である。

(2) 絵画、美術工芸

絵画や工芸品を扱うギャラリーがある。特に、額に木彫人形や面などを入れたものが人気である。民芸品としては、木や石の彫刻品、原石の加工品、ダチョウの卵の殻にペイントしたもの、手織りのウールの壁掛けなどがある。

10-8 趣味

(1) 園芸

園芸店はいたるところにあり、花、苗木、果樹などあらゆるものが手に入る。品揃えの良い店は次のとおりである。

LIFESTYLE

所在地：ヨハネスブルグ向け N1 を RANDPARK RIDGE/ROODEPOORT で降りる。
D.F.MALAN と EBEN DONGES の角。

備考：子どもの遊戯施設、カフェテリア、八百屋を併設。

KEITH KIRSTEN' S

所在地：ヨハネスブルグ向け N 1 を WILLIAM NICOL DRIVE で降り、FOURWAYS 向
きに 500m ほど行った右手。

備考：カフェテリアあり。

その他、プレトリア地区にもいくつかの園芸店がある。

(2) 釣り

Mpmalanga 州の Dullstroom 近郊のマス釣りが有名である。現地の自然保護区管理事務所でライセンスを取得する必要がある。海釣りは西ケープ州、東ケープ州の海岸で可能である。

10-9 娯楽、遊戯など

(1) 娯楽、遊戯、ゲーム

SUN CITY (プレトリアから車で約 2 時間) のホテル内に大きなカジノがある。また、競馬場もある。

(2) レジャーランド、娯楽場、遊園地

GOLD REEF CITY

備考：ヨハネスブルグにある遊園地を兼ねたテーマパーク。古い町の様子を再現。金採掘のデモンストレーションや伝統舞踊が見られる。

開園は火曜～日曜の 9:00～17:00。

入場料 16 ランド (週末 18 ランド、アトラクション乗り物代を含む)。

RANDBURG WATERFRONT

所在地：N1 RANDBURG そば。

備考：ショッピングセンターを中心に、フリーマーケット、レストランがある。人工池ではボート遊びができる。

HARTBESPOORT DAM

備考：プレトリア西部のダム。週末には人々がキャンプやバーベキューを楽しんでいる。

SUN CITY

備考：ホテル、カジノ、遊園地、ゴルフ場などを備えた総合娯楽施設。利用料は遊園地 35 ランド、ゴルフ場 80 ランドから 100 ランドなど。

10-10 スポーツ

(1) テニス

テニス用具、テニスウェアは調達できる。日本人会にテニスクラブがある。

(2) 水泳

NATAL 州、EASTERN CAPE 州などで海水浴ができる。

(3) その他のスポーツ、用具、ウェア

サッカー、ラグビー、クリケットが盛んである。用具、ウェアも容易に入手できる。

(4) スポーツクラブなど

スポーツクラブチェーンとして Health & Racket Club が有名である。

10-11 子供の遊び

おもちゃ、乗り物などの調達は当地でも可能であるが、使い慣れたものを持参している家庭が多い。

11. その他のサービス

11-1 金融機関

JICA 事務所が利用しているのは The First National Bank (ファースト・ナショナル銀行) である。

11-2 コンピュータ

パソコン、周辺機器は当地で調達できる。IBM、Apple、ICL などの代理店があり、修理を受け付けているが、日本から持参した物は断られることがある。

電圧は 240 ボルトであるため、日本国内仕様のものを使う場合は、該当する電圧のトランスを持ち込むこと。

テーブルタップがあるとプリンタやモデムなどの接続に便利である。

11-3 美容院・理髪店

美容院、理髪店はショッピングセンター内などにある。衛生状態は店により様々であるが、悪くはない。

12. 観光

12-1 地方旅行上の留意点

外国人の国内旅行に関する規則、制約、必要な手続きはない。地方の治安は比較的安定しているが、強盗やカージャックには注意が必要である。ヨハネスブルグ、ケープタウンなどの都市部の旅行は安全面に特に注意を払う必要がある。

12-2 主要観光地・保養地ガイド

<プレトリア>

PAUL KRUGER HOUSE*1

ポール・クルーガー初代大統領の家を利用した博物館。

MELROSE HOUSE*1

1886年に建てられたビクトリア調の建物。1902年のボーア戦争終結和平協定が結ばれた場所。当時の家具調度品が展示されている。

TRANSVAAL MUSEAM OF NATURAL HISTORY*1

自然科学のコレクション中心の博物館。南アフリカの動物、特に鳥類の収集が充実。

NATIONAL ZOOLOGICAL GARDENS*1

世界でも最大級の動物園の一つ。園内にケーブルカーで行く高台があり、市街地を一望できる。カフェテリアもある。

UNION BUILDING

大統領府が入っている建物。大きい前庭に公園が続いている。

<その他>

SUN CITY*2

プレトリアから車で約2時間。ホテルとカジノ、遊園地、ゴルフ場を備えた総合娯楽施設。プレトリアから日帰りツアーがある。

GOLD REEF CITY*2

ヨハネスブルグにある遊園地を兼ねたテーマパーク。古い町の様子が再現されている。金採掘のデモンストレーションや部族のダンスを見ることができる。

SANDTON CITY

ショッピングセンター。民芸品、高級品など様々な店がある。

野性動物公園

クルーガー国立公園とその周辺が有名である。食事付きのロッジとキャンプ場が数多くある。夏季は高温とマラリアに注意が必要である。

*1 詳細は「10-4 文化活動、文化施設 (P.19~)」を参照のこと。

*2 詳細は「10-9 娯楽、遊戯など (P.22)」を参照のこと。

12-3 旅行

(1) 自動車

自動車での移動が一般的である。道路が整備されているため、長距離ドライブの計画も立て易い。ホテルなどの標識も理解しやすいものである。

(2) バス

安全面から勧められない。

(3) 鉄道

プレトリアとケープタウンを結ぶブルートレインが観光列車として世界的に有名である。安全面でも問題はない。一般の鉄道は安全面で不安がある。

(4) 航空機

南アフリカ航空他数社が国内線を運航している。航空券は旅行代理店を通じて購入する。

12-4 旅行代理店

プレトリア、ヨハネスブルク市内に多数の旅行代理店がある。

Hatfield Travel

電話：012-632-6546

備考：JICA利用

Marumi Travel(日本航空代理店)

電話：011-884-9719

Wilson Collins

電話：011-328-8125

備考：日本人スタッフ駐在

12-5 ホテルなど宿泊施設の手配

ホテルは電話で直接予約できる。その際、クレジットカードの番号を聞かれることが多い。

13. 治安、緊急時の心得

13-1 暴動、クーデターなど

(1) 緊急時の連絡

緊急時の連絡網は、日本大使館ならびに日本人会会員と密接に連絡をとることを原則としている。非難場所、非難方法などは大使館の指示に従うこと。

13-2 強盗、盗難

(1) 一般的治安状況など

大都市および観光地の一部では犯罪が増加しており、殺人、強盗、カージャック、レイプなどが頻発している。特にヨハネスブルグのダウンタウン（カールトンセンター付近からヨハネスブルグ中央駅およびヒルブローに至る地区）は危険である。

1998年10月28日現在、外務省より注意喚起が出されている。

(2) 防犯対策

日頃から、貴重品や現金の携行は必要最小限にし、華美な服装や単独行動をできるだけ避けるなどの注意が必要である。いかなる時も、犯罪を誘発するような状況を作らないこと、隙を見せないことが重要である。

- ・徒歩や一般電車、バス、ミニバスなどによる移動は避け、自家用車を用いること。
- ・自家用車での走行中および駐車中は、窓を閉めてドアロックすること。
- ・人目のないところには駐車しないこと。
- ・わずか数分の駐車でも（盗難の可能性は高い）、ギアロックをかけアラームをセットすること。
- ・信号待ちでのカージャックも報告されているので、近づいてくる人には注意すること。危険を感じたら赤信号でも発進するくらいの警戒が必要である。
- ・住宅においては警報装置など防犯対策を講じること。

(3) 被害時の心得

武装した強盗などに遭った場合は、身の安全を確保することを最優先に考え、いたずらに抵抗したり、相手を刺激することは厳に慎むこと。「欲しいものは与える」という気持ちで落ち着いて対処すること。また、相手に誤解を与えるような動作はとらないことが肝要である。

緊急連絡先は次のとおりである。

日本大使館……………(012)342-2100 (17:30以降 342-2103)

警察……………10111

プレトリア市 救急車 ……10177

Ambulance De Vries (民間救急会社) …(012)323-0323

救急病院は次のとおりである。

Muelmed Hospital……………(012)44-2362

H F VERWOERD Hospital ……(012)354-1000

13-3 火災、風水害、地震

(1) 一般的災害発生状況など

落雷による火災がある。その他の災害は該当情報なし。

(2) 防災対策

落雷により電化製品などが故障、発火する場合に備え、アース付きコンセントを設置している住宅がある。隣家が茅葺き屋根の場合は避雷針があることを確認する。

(3) 被災時の心得

前項の緊急時連絡先に連絡する。

14. 出入国手続および帰国手続

14-1 入国時

(1) 空港施設概要

ターミナルビル内で入国審査、税関検査を受ける。申告するものがなければ、緑のランプのついている通路より出る。

(2) 入国手続書類

入国カードがある。公用旅券保持者は事前にビザを取得する必要がある。

(3) 入国審査

パスポート、入国カードを提出する。

(4) 税関検査

電化製品なども個人で使用するものについては免税となる。麻薬取り締まりが厳しいため、医薬品に疑いをかけられることがある。

(5) 空港内での留意点

置き引きに十分注意すること。

(6) 空港からの主な交通手段

JICA 関係者は、JICA 事務所が用意する車を利用すること。

14-2 出国時

(1) 出国時の概要

搭乗手続き、手荷物検査、出国手続きを経て搭乗待合室に入る。付加価値税 (VAT) の還付は待合室一番奥にあるカウンターで行う。

(2) 出国手続上の留意点

空港使用税は航空券に含まれている場合が多いが、航空券購入時に確認すること。出国カードはない。

14-3 帰国手続

(1) 帰国時に必要な事務手続

該当情報なし

(2) 車の処分

該当情報なし

(3) 家財道具の処分

該当情報なし

(4) 住宅の明け渡し

賃貸契約で定められている期限までに家主に通知する。家屋、設備、家具などの損傷、破損、不足を確認してもらい、査定のうち保証金を受け取る。

(5) 外貨持出し規制

外貨持ち出し規制はない。

15. 私財の輸送、引き取り、購入

15-1 家財道具

(1) 輸送業者

Nippon Express Johannesburg Representative Office (日本通運の現地事務所)

所在地：7TH Floor, Safren House, 19 Ameshoff Street, Braamfontein,

Johannesburg

電 話：011-403-2250

F A X：011-403-2260

(2) 輸入手続

事務所にて無税通関依頼書を作成し、南ア政府外務省の承認を得る。

(3) 輸入荷物の受取り港

該当情報なし。

(4) 家財道具の購入

家具、電化製品など、一般的な家財道具は容易に入手可能である。

15-2 自動車

(1) 一般状況

車は日常の移動手段として必須である。新車、中古車とも豊富にある。価格は車種により大きく異なるが、カローラ 1600 CC クラスでは新車で約 200 万円、中古車では 130 万円程度である。

(2) 輸入手続

車両は赴任時に 1 台のみ無税輸入可能である。事務所にて無税通関依頼書を作成し、南ア政府外務省の承認を得る。

(3) 任国での購入

各メーカーのディーラーがある。在庫があればすぐに入手できる。

(4) 自動車登録

当地で購入した場合は、登録手続き、保険加入手続きは購入先ディーラーが代行してくれる。

輸入した場合は、その車種と同モデルを扱うディーラーがあれば、有料で登録手続きを代行してくれる。自分で行う場合は、保険の手続きを済ませた後、警察署で輸入車であることの証明と車体検査を受け、陸運局に持ち込んでナンバープレートを取得する。

車の登録更新は 1 年ごとである。更新時に登録料の請求書が送られてくるので、陸運局に小切手を送付する。

(5) 免許証取得

大使館で日本の運転免許証の翻訳証明を取得する。この翻訳証明が当地の運転免許証として通用する。

(6) 保険、税金

自動車保険には Third Party、Full Third Party、Comprehensive がある。各種、車両の購入価格をもとに掛け金が算定される。

一般に、保険の更新は 1 年ごとであり、事故を起こさず補償金の支払いがなかった

場合は、次年度から掛け金が割引される。

事故の際は、警察への連絡、ポリスレポートの入手、保険会社への連絡を行う。
状況により保険会社の査定、または示談などとなる。

16. 社交

16-1 風俗習慣

白人社会における風俗習慣と黒人社会におけるそれとが存在する。

16-2 パーティーでの留意点

パーティーに出席する際は、正装かふだん着かを確認すること。夫人同伴のパーティーはほとんどない。

16-3 来客時の留意点

食事会を主催する機会がある。食事会は大皿料理を何品か並べ、各自ディナープレートでとってもらう方式が一般的である。客に失礼がないよう誠意を尽くすこと。
来客用のスリッパを持参すると便利である。

16-4 訪問時の留意点

食べ物や飲み物を持ち寄るパーティーでは、何が必要かをあらかじめ尋ねておく
よい。手土産の習慣はない。

16-5 禁止されている言動

人種差別に関する言動は慎むこと。

17. 任国官公庁

Ministry of Foreign Affairs (外務省)

Ministry of Provincial Affairs and Constitutional Development (教育地方自治・憲法開発省)

Ministry of Public Enterprises (公営企業省)

Ministry of Justice (司法省)

Ministry of Finance (大蔵省)

Ministry of Trade and Industry (通商産業省)

Ministry of Public Service and Administration (公共サービス・行政省)

Ministry of Education (教育省)

Ministry of Home Affairs (内務省)

Ministry of Environmental Affairs and Tourism (環境・観光省)

Ministry of Defence (国防省)

Ministry of Posts, Telecommunications and Broadcasting (郵便・通信・放送省)

Ministry of Housing (住宅省)

Ministry of Land Affairs (土地対策省)

Ministry of Transport (運輸省)

Ministry of Agriculture (農業省)

Ministry of Correctional Services (矯正省)

Ministry of Water Affairs and Forestry (水利・森林省)

Ministry of Arts, Culture, Science and Technology (芸術・文化・科学技術省)

Ministry of General Affairs (総務省)

Ministry of Public Works (公共事業省)

Ministry of Welfare and Population Development (更生・人口開発省)

Ministry of Health (保健省)

Ministry of Safety and Security (安全対策・治安省)

Ministry of Sports and Recreation (スポーツ・リクレーション省)

Ministry of Mineral and Energy Affairs (鉱業・エネルギー省)

18. 在外日本関係機関など

在南アフリカ日本大使館

所在地：2 nd Floor, Sanlam Building, 353 Festival Street Corner Alcadia Street, Hatfield, Pretoria

電 話：(012)342-2100

F A X：(012)43-3922

執務時間：8:30～16:30

JETRO

所在地：1st Floor, Sanlam Park West, 9 Fredman Drive, Sandton

電 話：(012)784-6084

F A X：(012)784-8721

南アフリカ日本人会

電 話：(011)784-2167

19. 地方都市

該当情報なし

任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は政府間技術協力のために開発途上国へ赴任する専門家などの JICA 関係者が任国への入国および滞在するために必要とされる情報、とくに生活情報を提供するものです。

専門家などの JICA 関係者は、技術協力協定などの国際約束に基づいて派遣されておりますので赴任国で課せられる税金が免除されることがあります。任国情報はこうした関係者を対象として作成されておりますので、あらかじめご了解願います。

-----アジア地域-----

1. バングラデシュ
2. ブータン
3. ブルネイ
4. カンボディア
5. 中華人民共和国
6. インド
7. インドネシア (ジャカルタ、バンドン、
ジョグジャカルタ、メダン)
8. 大韓民国
9. ラオス
10. マレーシア
11. ミャンマー
12. ネパール
13. パキスタン
14. フィリピン
15. シンガポール
16. スリ・ランカ
17. タイ (バンコク、チェンマイ、コンケン)
18. ヴィエトナム
19. モンゴル

-----中近東地域-----

1. アルジェリア
2. バハレーン
3. エジプト
4. イラン
5. ジョルダン
6. クウェイト
7. モロッコ
8. オマーン
9. カタル
10. サウディ・アラビア
11. スーダン
12. シリア
13. テュニジア
14. トルコ (アンカラ、イスタンブール)
15. アラブ首長国連邦 (ドバイ、アブダビ、アマン)
16. イエメン (サナア)

-----太平洋地域-----

1. フィジー
2. キリバス
3. ミクロネシア
4. バラオ
5. パプア・ニューギニア
6. ソロモン諸島
7. ヴァヌアツ
8. 西サモア
9. トンガ
10. マーシャル諸島

-----欧州地域-----

1. カザフスタン
2. キルギス
3. ポーランド
4. タジキスタン
5. トルクメニスタン
6. ウズベキスタン
7. ハンガリー
8. ブルガリア
9. チェッコ
10. ルーマニア

-----アフリカ地域-----

1. ベナン
2. ブルンディ
3. カメルーン
4. カーボ・ヴェルデ
5. コモロ
6. エチオピア
7. ガンビア
8. ガーナ
9. ギニア
10. ギニア・ビサオ
11. コートジボアール
12. ケニア
13. リベリア
14. マダガスカル (アンタナナリボ、アンチラナナ)
15. マラウイ
16. モーリシャス
17. モザンビーク
18. ニジェール
19. ナイジェリア
20. ルワンダ
21. サントメ・プリンシペ
22. セネガル
23. セイシェル
24. ソマリア
25. タンザニア
26. トーゴ
27. ザイール
28. ザンビア
29. ジンバブエ
30. スワジランド
31. ボツワナ
32. エリトリア
33. 南アフリカ
34. ジブティ
35. ウガンダ

-----中南米地域-----

1. アルゼンティン
2. ボリヴィア (ラ・パス、サンタクルス)
3. ブラジル (ブラジリア、サンパウロ、リオデジャネイロ、
ポルトアレグレ、ベレーン)
4. チリ
5. コロンビア
6. コスタ・リカ
7. ドミニカ共和国
8. エクアドル
9. グレナダ
10. グアテマラ
11. ホンデュラス
12. メキシコ
13. パナマ
14. パラグアイ (アスンシオン、エンカルナシオン)
15. ペルー
16. セント・ルシア
17. トリニダード・トバゴ
18. ウルグアイ
19. ヴェネズエラ
20. ニカラグア
21. ジャマイカ

「任国情報（南アフリカ）1998年版」

平成11年3月31日発行

編集・発行所 国際協力事業団 国際協力総合研修所

〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10番5号

電話 (03)3269-2357

